

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2024年4月9日第119号—

<目次>

●新たな100年へ～希望のまち・川崎を、市民の力で作ろう！～

■川崎市内の小学校プール水流出事故の損害賠償請求の撤回を

▲お知らせコーナー

- ① 4/19 川崎民主市政をつくる会 春の講演会
- ② 4/21 巨大物流センターを考える集会
- ③ 4/23～27 ゆめシネマ「雪道」上映会
- ④ 4/25 台風19号多摩川水害川崎訴訟 口頭弁論
- ⑤ 5/1 第95回川崎メーデー

★編集後記

●新たな100年へ～希望のまち・川崎を、市民の力で作ろう！～

1924年7月に川崎市が誕生して、ちょうど100周年となる2024年度が始まりました。

川崎市は2022年、3月に『市制100周年記念事業』を発表し、「基本的な考え方」を次のように決めています。(抜粋)

※全文は[こちら](#)

本市は、多様なバックグラウンドや価値観、能力を持つ人たちが、共に暮らし、働き、そして互いに認め合い、支え合い、高め合うことで発展してきました。

先人の努力や功績に感謝し、時代とともに変貌してきた本市のこれまでのあゆみや歴史・文化を知り、本市の発展を支えてきた「多様性」の価値を改めて共有し、市民に「愛着」と「誇り」を持っていただく機会とします。

さらに、将来にわたって、誰もが暮らしやすい笑顔あふれる「最幸のまち」へとつなげていくため、この契機を未来に向けた活力ある「あたらしい川崎」を生み出していく新たなスタートラインとします。

<川崎市政100周年記念事業に83億4千万円…>

市制100周年記念事業は、2024年4月1日から、2025年3月31日にかけて実施します。

その事業内容を調べて、まず、一番目の驚きは、その予算額の桁違いの大きさです。

その額は、83 億 4637 万円。

そして、2番目の驚きは、イベント、おまつり、式典のオンパレードになっていることです。

「物価高の中で、こんな周年行事をやっている場合か。

一過性のイベントではなく、もっと、市民生活を支援する税金の使い方にすべきだ。」という声があるのは当然です。

これに対し、川崎市は、24 億円かける目玉イベントの「緑化フェア」では、支出以上の経済波及効果があると反論するでしょう。

ちなみに、仙台市で昨年4月から6月まで開かれた「全国都市緑化仙台フェア」について、仙台市の試算で125億円の経済波及効果があったと公表しました。(要旨)

- ・青葉山公園をメイン会場に54日間開催され、期間中の来場者数は 115 万 7000 人
- ・来場者の飲食代や宿泊代、プランターなどの資材やメイン会場の設営費などあわせた経済波及効果がおおよそ125億円と試算

川崎市の場合は、コア会場を、富士見公園、等々力緑地、生田緑地。とし、「川崎らしいみどりの価値を発信」としています。

その理念と、「24 億円以上を儲ける」狙いとは、両立するものなのでしょうか、疑問です。

また、6月29日の等々力公園でのイベントにブルーインパルス飛行を実施すると発表しました。

こんな発想では、市民みんなが楽しめるイベントにもなりません。

<新たな 100 年へ～希望のまち・川崎を、市民の力で作ろう！～>

この 100 年をふりかえれば、市民は、15 年にわたるアジア・太平洋戦争の被害と加害を体験し、戦後には、川崎公害とたたかい、伊藤革新市政を支え、さらに、この20年間は国と自治体によるまち壊しとたたかい、私たちのまちをつくってきたのです。

それらの貴重な体験や資料をみなさんはお持ちだと思います。

メルマガ編集部は、市民のパワーを集め、川崎市民 100 年史の作成を呼びかけます。

この 100 年の折々の出来事を残し、綴っていきましょう。このメルマガにも、積極的な投稿を呼びかけます。

■川崎市内の小学校プール水流出事故の損害賠償請求の撤回を

<オンライン署名へのご協力のお願い>

[署名はこちらから](#)

私たち川崎労働組合総連合(以下、川崎労連)は、下記の川崎市教育委員会による当該教員への不当な損害賠償請求について、同様の請求が認められ続ければ、教員のみならず、すべての労働者が不当な損害賠償請求に委縮し安心して働くことができなくなりかねないとの懸念から、川崎市教育委員会に撤回を求めています。

撤回の実現には、多くの市民の皆様のご支援が必要です。

安心して働ける職場と皆様の生活を守るために、ぜひ、署名にご協力くださいますよう、宜しくお願い致します。

<請願の趣旨>

2023年5月に川崎市立稲田小学校において、プールの注水に際し、止水作業に失敗し、5日間注水し続けたことで、プール約6杯分に当たる約2,200?の水を流出させた事故が発生しました。

川崎市教育委員会はその損害額約190万円の5割相当額である約95万円を同校の校長と担当教員に請求しました。

市教委は私たち川崎労連の2回の申し入れに対する回答(5川教学第698号および5川教学第1078号)の中で、「学校に設置されていたプール水の入れ方に関するマニュアルの不備、および、事務局として損害の予防に関する配慮が十分ではなかったこと」を認めており、本件は当該教員の故意や重過失によって起きたものでないことは明らかです。

他方、2023年8月に横浜市立永田小学校で3日間近くプールに注水し続け、水道料金約58万7千円の損害が出た事故では、横浜市教育委員会は当該教員に「重大な過失にはあたらない」として賠償請求しませんでした。

2023年9月には川崎市教職員連絡会から当該賠償請求の撤回を求める約1万7千筆の署名が提出されました。

また当該学校の保護者らは「先生の負担を少しでも軽くできないか」と寄付を募り約67万円が集まりました。

東京新聞の2023年10月22日の報道によれば、東京のNPO法人によるアンケートで当賠償請求が「おかしい・理不尽だ」と受け止めた教職員が9割超でした。このように市教委の損害賠償請求は、市民や教員からも批判されています。

昨今川崎市の公立学校においては教員が定員割れし続けているのに、業務中に発生した損害

を教員に負わせるようなことが横行すれば、教員不足に拍車をかけることにならないか懸念もされます。

以上のように、法的にも世論でも当該賠償請求は不当なものであり、また、労働者たる教員の生活や権利を守るためにも看過できません。

したがって、以下の請願を致します。

<請願事項>

- ①市教委による当該教員への損害賠償請求を撤回すること。
- ②すでに納められている賠償金を当該教員に返金すること。
- ③横浜市などにならない、今後同様の事例の際に賠償請求を行わないこと。

吉根清博(川崎労連事務局長)

お知らせコーナー

① 川崎民主市政をつくる会 春の講演会

安心と希望のまちづくり～地方自治の主役はわたしたち～

講師 岡田知弘さん(自治体問題研究所理事長)

4/19(金)午後6時～8時半

会場 かわさきゆめホール(向河原駅下車7分)

資料代 300円

主催:川崎民主市政をつくる会

共催:川崎民主市政をつくる中原区の会

[詳細はこちら](#)

② 巨大物流センターを考える集会

4/21(日)午後1時半～3時半

荻宿小学校1階会議室

よびかけ 巨大物流センターを考える住民の会

連絡先 広瀬忠雄 Tel

044-433-7948

三菱ふそう跡地に市民ミュージアムと緑豊かな憩いの場を求める陳情

ネット署名を開始しました。

ご協力と拡散をお願いします。

[ネット署名はこちら](#)

③ ゆめシネマ・映画「雪道」連続上映会

4月 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |

9時 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

12時 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

15時 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

18時 - | - | - | ○ | ○ |

23日のみ3回とも終映後に梁澄子(ヤンチンジャ)さんのトークあり

会場:かわさきゆめホール

一般:1000円

障がい者:500円

学生以下:200円

予約無し:+500円

お申し込み

044-433-3003 かわさきゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

[詳しくはこちら](#)

④ 台風19号多摩川水害川崎訴訟 口頭弁論

4/25(木)15:15 開廷

横浜地裁川崎支部 1号法廷

14:45から事前集会を開催

[詳しくはこちら](#)

⑤ 第95回川崎メーデー

5/1(水)10時開会～12時半デモ行進

会場 中原平和公園野外音楽堂

よびかけ 川崎メーデー実行委員会

連絡先 川崎労連

TEL 044-211-5164

★編集後記

4月4日から6日まで、全国革新懇主催の「沖縄行動」に参加してきました。

総勢29名。二日目には、雨の中の辺野古ゲート前の座り込み行動や、平和丸に乗って海上抗議行動も実施しました。

1日目の訪問地のうるま市は、沖縄の中南部にあり、世界遺産の勝連城や、5キロも続く海中道路が有名です。

一方で、米軍のホワイト・ビーチ地区や、陸上自衛隊の勝連分屯地があり、これまで市民の多数は、「基地との共存」を選択してきたのです。

道路には「勝連分屯地へのミサイル配備歓迎」ののぼり旗が何本か並んでいました。

しかし、昨年12月、防衛省がうるま市内石川区にあるゴルフ場跡地を陸上自衛隊の訓練基地にすると突然、発表したことで、住民の意見が数か月で「基地増強反対」へと大きく変わります。

基地の予定地に隣接する旭自治会が2月に総意で「新基地反対」を決議し、旭地区の住民が、市内の100を超える自治会に働きかけて賛同をとりつけ、さらに、市議会と市長にも反対を表明させました。

さらに、3月の県議会も全会一致で、基地断念の意見書を採択したのです。

その広がりスピードには驚くばかりです。

ゴルフ場跡地入口までのゆるやかな上り道路の両側には、立派な民家が延々と続いていました。ゴルフ場のクラブハウスは閉鎖されていましたが、その奥には、県立石川青少年の家がありました。

宿泊、キャンプ、裏の山への登山コースもあり、年間4万人が利用するが緑豊かな施設でした。こんな豊かな自然に恵まれた施設と住宅地の中に、軍事施設や訓練基地を計画したのです。

防衛省と自衛隊の傲慢さ、住民の生活を守ろうとか環境を保全しようなどまるで考慮しない姿勢が見え見えます。

そして今になって、あわてた防衛省は、住民を懐柔し、分断する妥協案を画策しているとのことでした。

うるま市の自衛隊基地新設計画反対が、全国で進む自衛隊増強と住民のたたかいの最前線となっています。

白紙撤回を勝ち取るまでの沖縄県民のたたかいを心から応援していきたいです。(H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/g18NfPy9JJ32?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp